



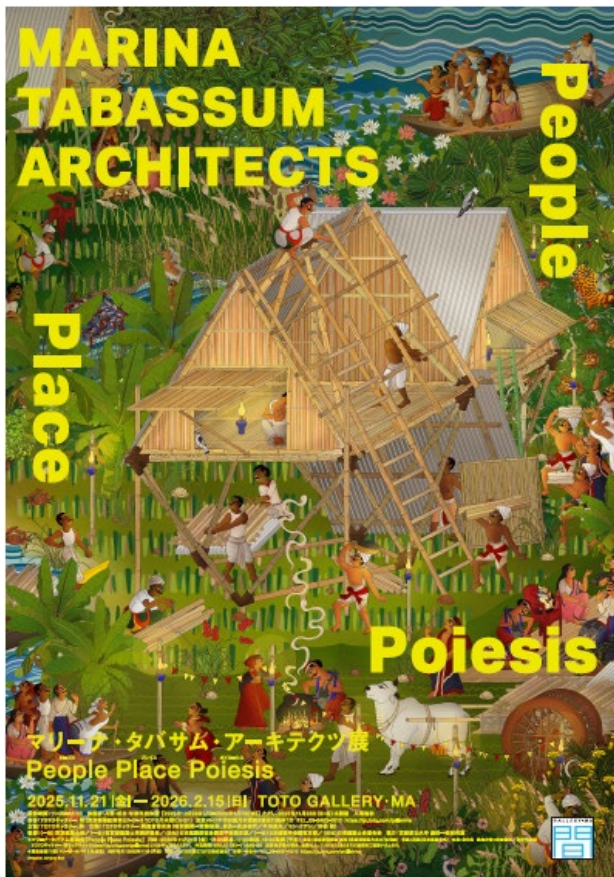
マリーナ・タバサム・アーキテクト展:

People Place Poiesis (ピープル プレイス ポイエーシス)

Marina Tabassum Architects: People Place Poiesis

TOTO株式会社(本社:福岡県北九州市、社長:田村 信也)が、社会貢献活動の一環として運営している「TOTOギャラリー・間(ま)」(東京都港区)は、バングラデシュのダッカを拠点に、気候や文化、伝統に根差した建築を手掛けるマリーナ・タバサム・アーキテクト(MTA)の展覧会「People Place Poiesis(ピープル プレイス ポイエーシス)」を、2025年11月21日(金)～2026年2月15日(日)の会期で開催します。

本展覧会では、過密する都市において、多様な人々が集う場所や、洪水で家を失った人々のための可動式住宅など、建築を通じて人々とともに生きるMTAの活動を、模型や映像、インスタレーションで紹介します。



本展ポスター

展覧会

会期——2025年11月21日(金)

～2026年2月15日(日)

会場——TOTOギャラリー・間

東京都港区南青山1-24-3

TOTO乃木坂ビル3F

休館日——月曜・祝日・年末年始休暇

[2025年12月29日(月)

～2026年1月7日(水)]

ただし、2025年11月23日(日・祝)

は開館

開館時間——11:00～18:00 入場無料

講演会

開催日——2025年11月21日(金)

16:00開場、17:00開演、19:00終演(予定)

会場——国立新美術館3F講堂

東京都港区六本木7-22-2

言語——英語(日本語通訳有)

定員——260名

参加方法——参加無料／事前申込制

TOTOギャラリー・間ウェブサイト

(<https://jp.toto.com/gallerma>)より

お申し込みください

申込期間——2025年9月10日(水)

～11月9日(日)

※申込み多数の場合、抽選の上、

11月14日(金)までに結果をご連絡いたします。

展覧会概要

TOTOギャラリー・間では、バングラデシュのダッカを拠点に活動するマリーナ・タバサム・アーキテクト（MTA）の展覧会「People Place Poiesis（ピープル プレイス ポイエーシス）」を開催します。

MTAを率いる建築家マリーナ・タバサム氏は、気候や文化、伝統に根差した建築を手がけるだけでなく、自然災害や貧困等で苦しむ人々への支援に取り組んできました。例えばダッカ市内に設計した「バイト・ウル・ロウフ・モスク」（2020年アガ・カーン建築賞受賞）では、地域の土を焼成したレンガと幾何学を用いて、静謐な光をたたえ風が通り抜ける祈りの空間を創出し、爆発的な拡大を続ける過密都市において多様な人々が集う寛容な建築を実現しています。また、国全体の約7%が河川に覆われ、洪水で国土の約1/3が水没することもあるバングラデシュにおいて、住む場所を失った人のためにMTAが考案した可動式の住宅「クディ・バリ」（現地語で「小さな家」の意味）は、地域の人々の手により短期間で組み立て・解体することができ、洪水発生時のシェルターとしても機能します。MTAが立ち上げた財団F.A.C.E（The Foundation for Architecture and Community Equity）は、国内各地でクディ・バリを提供するだけでなく、ユニットを組み合わせることで、ロヒンギアの難民キャンプにおけるコミュニティセンターなど幅広い用途の建物に応用しています。こうした活動と作品が評価され、マリーナ・タバサム氏は2024年にTIME誌の「世界で最も影響力のある100人」に選出、2025年の「サーペンタイン・ギャラリー・パビリオン」※1の設計者に選ばれるなど、MTAの活動にいま世界から注目が集まっています。

本展では、「人々」「土地」、そして創作や詩作を意味する「ポイエーシス」をテーマに、彼女たちの作品と活動を、模型や映像、インスタレーション等で紹介します。中庭はMTAオリジナルの「クディ・バリ」をバングラデシュから輸送し立ち上げるとともに、京都の里山で実践を行う建築家の森田一弥氏と京都府立大学森田研究室協力のもと、日本の素材と技術で翻案した「日本版クディ・バリ」を新たに制作し、展示します。

マリーナ・タバサム・アーキテクトが、バングラデシュという土地で人々とともにつむぎあげてきた建築の物語を、ぜひご覧ください。

※1：英国王立公園ケンジントン・ガーデンにて毎年夏に世界的建築家が手がける期間限定のパビリオン

TOTOギャラリー・間

展覧会詳細

展覧会名（日）—— マリーナ・タバサム・アーキテクト展：People Place Poiesis（ピープル プレイス ポイエーシス）

展覧会名（英）—— Marina Tabassum Architects: People Place Poiesis

会期 —— 2025年11月21日（金）～2026年2月15日（日）

開館時間 —— 11:00～18:00 入場無料

休館日 —— 月曜・祝日・年末年始休暇 [2025年12月29日（月）～2026年1月7日（水）]
ただし、2025年11月23日（日・祝）は開館

会場 —— TOTOギャラリー・間
（〒107-0062 東京都港区南青山1-24-3 TOTO乃木坂ビル3F）
東京メトロ千代田線乃木坂駅3番出口徒歩1分 TEL:03-3402-1010

主催 —— TOTOギャラリー・間

企画 —— TOTOギャラリー・間運営委員会
（特別顧問＝安藤忠雄、委員＝貝島桃代／平田晃久／セン・クアン／田根 剛）

協力 —— 京都府立大学 森田一弥研究室

後援 —— （一社）東京建築士会／（一社）東京都建築士事務所協会／（公社）日本建築家協会
関東甲信越支部／（一社）日本建築学会関東支部／（公社）日本建築士会連合会

出展者プロフィール

マリーナ・タバサム Marina Tabassum

バングラデシュ出身の建築家・教育者。2005年、ダッカに自身の建築設計事務所「マリーナ・タバサム・アーキテクト（Marina Tabassum Architects）」を設立。

現在オランダ・デルフト工科大学で教授を務めるほか、イエール大学建築学部、ハーバード大学デザイン大学院、ベンガル・インスティテュートなどで教鞭を執る。ドイツ・ミュンヘン工科大学より名誉博士号を授与。アガ・カーン建築賞に加え、ジャミール賞、アメリカ芸術文学アカデミーによるアーノルド・ブルンナー記念賞、フランス建築アカデミーの金賞、イギリスのソーン建築賞など、受賞歴多数。建築と地域の公平性を支援する団体「F.A.C.E (Foundation for Architecture and Community Equity)」およびフェアトレード団体「Prokritee」代表。2017年から2022年まで、アガ・カーン建築賞の運営委員を歴任。英国王立芸術協会(RSA)フェロー。



© Asif Salman

関連イベント

マリーナ・タバサム講演会 「People Place Poiesis」

日時 ————— 2025年11月21日（金） 16:00開場、17:00開演、19:00終演（予定）

会場 ————— 国立新美術館 講堂（東京都港区六本木7-22-2）

言語 ————— 英語（日本語通訳有）

定員 ————— 260名

参加方法 ———— 参加無料／事前申込制

TOTOギャラリー・間ウェブサイト(<https://jp.toto.com/gallerma>)よりお申込みください。

申込期間 ———— 2025年9月10日（水）～11月9日（日）

申込み多数の場合、抽選の上、11月14日（金）までに結果をご連絡いたします。

注意事項 ———— ※当講演会では未就学のお子様連れのお申し込みはご遠慮いただいております。

※プログラムは予告なく変更する場合がございます。最新情報は TOTO ギャラリー・間ウェブサイトをご確認ください。

関連書籍

『(仮)マリーナ・タバサム作品集』

著者：マリーナ・タバサム

発行年月：2025年11月（予定）

発行：TOTO出版（TOTO株式会社）

TEL 03-3497-1010

<https://jp.toto.com/publishing>

People Place Poiesis

People | 人々

私たちは人々のために建築をつくる。彼らの願いや夢は、建築の創造的な表現を通して顕在化する。彼らがその空間を自らのものとして活かすことで、空間は生命を宿し、時間とともに成長し、姿を変えていく。空間は人間の行動に影響を与え、その行動を形づくることで、空間を生きる者の集合的な記憶や文化を変容させる。

Place | 場所

場所はコンテクストを生み出す。地理と気候は、文化を通して表現される人々の独自性を特徴づける。場所は多様性をもたらす。建築の言語は、素材の組み合わせ、気候への対応、そして文化的表現によって定義される。

バングラデシュは、ガンジス川のデルタ地帯とヒマラヤ山脈に囲まれた人口1億7000万人の国である。肥沃な沖積土、亜熱帯の気候、豊かな水を湛える平野は、自由を愛するベンガル人の心のよりどころであり、またこの地は文学、音楽、食、テキスタイルなど豊かな文化を育んできた。建築は、土を素材とした質素なものから始まった。土でできた住居は何世代にもわたって受け継がれ、今日に至っている。

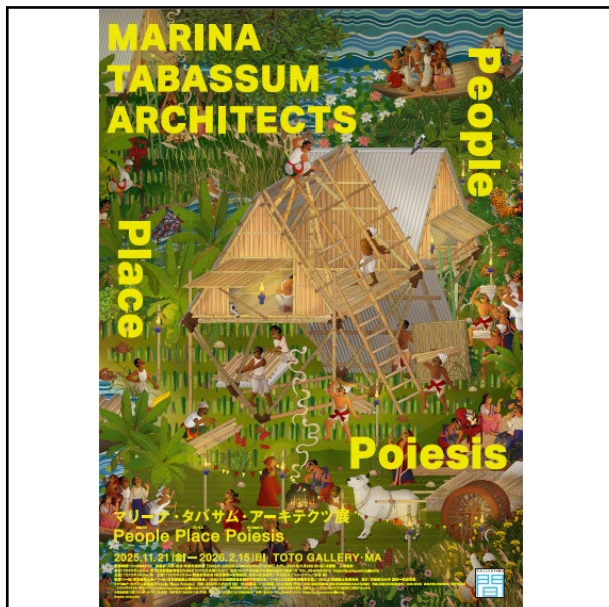
Poiesis | ポイエーシス

古代ギリシア哲学に由来する「ポイエーシス」は、芸術的表現、知的な取り組み、あるいは科学的発見を通してものを存在せしめる過程と結果の両方を包含している。本質的にポイエーシスとは、新しいアイデアを生み出し、芸術と建築を創造し、有意義な表現を生み出す人間の創造力を体現したものである。

「People Place Poiesis」展は、ベンガル・デルタの独自性に応える建築を探求するマリーナ・タバサム・アーキテクトの取り組みを紹介し、人間の活動、場所、創造的な表現が相互に結びついていることを明らかにする。私たちは、敷地やその周辺の地域社会と密接に連携し、当事者意識を高めるため、多くの場合、設計や建設のプロセスに地域社会の参画を得ている。私たちの建築実践は、地元の材料や建築・工芸に関する知識を活用することに重点を置いており、長いサプライチェーンを減らして地域経済を活性化させるだけでなく、その土地の独自性から生み出される建築言語を尊重している。

私たちはこの展覧会を通して、バングラデシュのさまざまな面を日本の皆様に紹介し、お互いの文化に深い敬意を払いながら、より大きなコミュニティとしてひとつにつながるための共通の基盤を見つけていきたいと願っている。

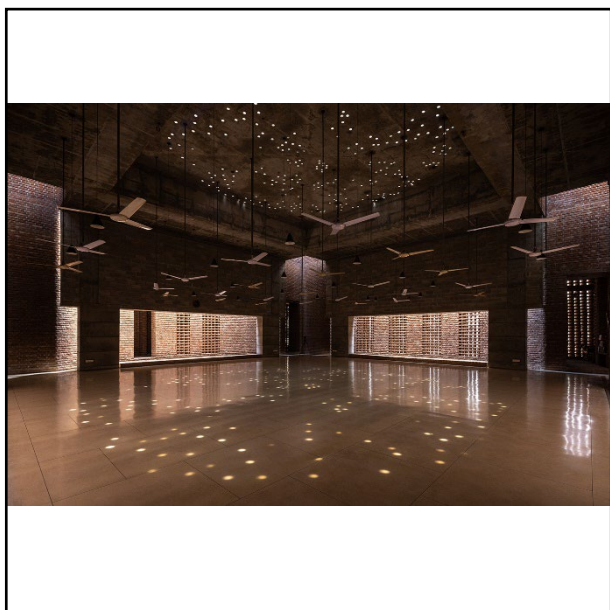
マリーナ・タバサム



[1] 展覧会ポスター
Artwork: Arinjoy Sen



[2] クディ・バリ(現地語で「小さな家」の意味)
(バングラデシュの各地、2020年～)
© Asif Salman



[3] バイト・ウル・ロウフ・モスク
(バングラデシュ ダッカ、2012年)
© Asif Salman



[4] アルファダンガ・モスク
(バングラデシュ ファリドプル、2022年)
© Asif Salman



[5] 独立記念博物館(ミュージアム・オブ・インディペンデンス) (バングラデシュ ダッカ、2006年)
設計: URBANA (K.チョウドリーとの共同設計)
© City Syntax



[6] パニグラム・エコ・リゾート・アンド・スパ (バングラデシュ ジョシュール、2018年)
© MTA



[7] クディ・バリ建設の地域住民参画の様子
© Asif Salman



[8] サーペンタイン・ギャラリー・パビリオン (イギリス ロンドン、2025年)
© MTA

TOTOの建築文化活動

TOTOは、建築の専門ギャラリー「TOTOギャラリー・間(ま)」と建築系書籍の出版をおこなう「TOTO出版」を運営しています。これらは、建築文化の醸成・育成を通して社会に貢献することを目的として創設され、40年にわたり活動しています。

「TOTOギャラリー・間」と「TOTO出版」は、建築家をもつ多様な価値観を空間で表現する「展覧会」、自身の言葉で伝える「講演会」、そしてかれらの理論と思想を伝える「出版」によって、建築の文化的な価値を社会に発信しています。



共通価値創造戦略 TOTO WILL2030

きれいと快適・健康



環境



人とのつながり



「社会的価値・環境価値」と「経済価値」を同時に実現する共通価値創造戦略 TOTO WILL2030 では、「きれいと快適・健康」「環境」「人とのつながり」に取り組むべき重要課題「マテリアリティ」としてサステナビリティ経営を強化し、国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」にも貢献していきます。

<https://jp.toto.com/company/profile/philosophy/managementplan>